

令和7年度 学校経営の重点

伊勢崎市立あずま南小学校

学校 教育 目標	◎ 基本目標 生涯教育の基礎を培い、心身ともに健康で、豊かな感性と知性をもち、自ら判断し実践する児童を育てる。 ◎ 具体目標 ◇思いやりのある子 ◇よく考える子 ◇たくましい子 ◇ふるさとを愛する子
学校 経営 の 課 題	1 「生きる力」をはぐくむ指導の充実 (1) 豊かな心の育成 (2) 学力の向上 (3) 健康・安全維持と体力の向上 (4) 特別支援教育の推進 2 信頼される学校づくりの推進 (1) 組織力の向上 (2) 教員等の能力開発と資質の向上 (3) 家庭・地域との連携・協力の強化
学校 経営 の 方 針	目指す学校像 『子供がチャレンジ意欲を高め、創造性を発揮する教育活動が組織的に展開される学校』 ○分かる授業、個に応じたきめ細かな指導の充実 ○体験的、問題解決的な学習の充実と学習意欲の向上 ○いじめの未然防止と不登校への早期対応 ○保護者と連携した望ましい生活習慣や学習習慣の育成 ○学校組織の改善と教員の実践的指導力の向上 ○地域と協働した学校づくりの推進
本 年 度 の 努 力 点	1 「生きる力」をはぐくむ指導の充実 (1) 豊かな心の育成 ・「特別の教科 道徳」では、道徳的な課題を自分との関わりで捉え、他者との交流の中で納得解を得られる授業づくりを目指す。 ・人権教育では、一人一人の良さが認められ、共に生きているという実感がもてるような指導を行い、温かい学級・学年づくりを目指す。 ・児童主体の活動(児童会活動、縦割り活動、あいさつ運動、いじめ防止をテーマにした学級活動)や児童の「いいところみつけ」を積極的に実施・共有し、いじめの低減を目指す。 ・生徒指導「4つの視点」を常に意識して、生徒指導上の諸課題の未然防止や早期発見・対応に組織的に取り組む。 4つの視点・・・「自己存在感の感受」「共感的な人間関係の育成」「自己決定の場の提供」「安全・安心な風土の醸成」 ・生徒指導記録ファイルを活用し、日々の生徒指導事案を積み上げ、全職員で情報を共有する。 ・生徒指導主任、教育相談担当を中心に担任、養護教諭、S Cや生活相談員がそれぞれに、共感的・受容的な児童理解をもとに児童の小さな変化にも敏感に気づき、迅速な対応を心がけ、家庭と連携して不登校の低減を目指す。 (2) 学力の向上 ・「主体的・対話的で深い学び」の実現となる授業を展開し、「めあて」と「まとめ」の設定や学習への見通しの持たせ方を工夫した授業改善を行い、教科の楽しさを実感できる学習指導を目指す。 ・3～6学年で教科担当制を推進する。

- ①教員の指導力向上・児童の学力向上
- ②複数の教員の関与による児童の多面的な理解
- ③中1ギャップの解消

④授業準備の効率化による働き方改革

- ・ICT機器を用いた授業改善を一層強化し、個別最適な学習と協働的な学習を促進する。
- ・「家庭学習のすすめ」、「あずま南っ子(NRT/CRT/体力シート記録ファイル)」を活用し、家庭と連携し自主的な家庭学習の推進に努める。
- ・学力差が生じやすい5学年の算数を、担任とマイタウンティーチャーによるきめ細かな少人数指導を展開し、上位層の一層の学力向上と下位層の基礎基本の定着を図る。
- ・英語学習は、ALT・ESの役割を明確にし、効果的な英語指導を推進する。
(1～4年：週3回のモジュール授業は担任のみ。もう1コマの授業はESとTT。
5～6年：2コマ授業は、ALTとのTT。)
- ・ふるさと学習（総合的な学習の時間）では、学習のねらいや系統性を明確にし、地域ボランティアを活用しながら様々な体験活動を実施し、周囲への感謝の気持ちや自己有用感、社会性を高められるような授業づくりに努める。

(3) 健康・安全維持と体力の向上

- ・運動の楽しさやできる喜びの味わえる体育の授業や運動タイムを実施し、健康でたくましい児童の育成に努める。
- ・「あずま南小学校の約束」や「家庭学習のすすめ」を活用し、家庭での望ましい生活習慣の育成に努める。
- ・災害を想定して、保護者への引き渡し訓練、避難訓練(火災・地震・不審者)、交通安全教室、防犯教室を実施し、災害・交通・防犯に対する安全教育を推進し、事故ゼロを目指す。

(4) 特別支援教育の推進

- ・特別支援教育コーディネーターを中核に、知的・情緒教室担任、協力学級担任、教育支援員、生活学習相談員、スクールカウンセラー、養護教諭がチームとなり、特別支援教育を推進する。
- ・通常学級に在籍する個別な配慮が必要な児童に対し、特性や発達の理解及び指導の充実に努め、存在感和安心感をもって活動できる学校づくりを推進する。

2 信頼される学校づくりの推進

(1) 組織力の向上

- ・学校が進む方向性を明確にし、目標を共有する。
- ・教育課程の編成・実施・評価の適正化を図るため、組織的・計画的な運営に努める。
- ・人事評価制度を活用し、教職員の経営参画体制の確立に努める。
- ・学校評価の機能を生かし、保護者や地域の理解・協力が得られるよう努める。

(2) 教職員の能力開発と資質向上

- ・人事評価制度に基づく面談の中で、一人一人の目標を管理職と共有し、中間面談や授業参観後の指導助言を通じて、目標達成へのマネジメントを意識できるようにする。
- ・管理職等による授業参観や一人一授業、各ブロックごとの提案授業や代表授業を行い、研修の推進を図る。
- ・教員相互の授業参観を日常的に推進し、授業改善を目指す。
- ・メンター研修を実施し、若手教員の指導力向上を目指す。

(3) 家庭・地域との連携・協力

- ・野菜作り、米作り等の体験活動や町たんけん、ふるさと学習では、地域の教育力を活用し、ふるさとを愛する心を育てる。
- ・スマイルサポーター活動や保護者ボランティアの支援を受け、教育活動の充実に努める。
- ・通学路点検や校地整備など家庭・地域と連携した安全管理に努める。
- ・学校通信や学年通信、Webページ等の活用により、家庭・地域の学校理解に努める。